



# 士別ロータリークラブ会報

創立1960・3・24 RI第2500地区

vol.33 No.2217



ROTARY SHARES

## ロータリーは 分かちあいの心

2007～2008年度RI会長  
ウィルフリッド・J・ウィルキンソン



士別中学校 武田吉夫 画

- 例会場／士別グランドホテル
- 例会日／毎週月曜日 12:10～13:10
- 事務所／士別グランドホテル TEL:(0165)23-1234
- 会長／本山 忠之
- 副会長／三野 博司
- 幹事／千葉 繁夫

### 今日のプログラム

### 第2297回例会 2008年4月21日(月)〈普通例会〉

#### ■4月14日の記録■ 〈普通例会〉

- 司 会 志村孝幸会場監督
- 斉 唱 我等の生業
- 本日の出席 出席率79.03% 会員62名中、出席者49名
- 本日の欠席 阿達 勇、大伏彰吾、伊藤優市、笹野孝志、佐藤安司、武田吉夫、寺下隆通、鍋島 秀、福島栄三、加藤 博、中川涼一、野 英俊、宮田喜久三郎
- メイクアップ 百瀬達夫(名寄ロータリー4/1)
- ビ ジ タ ー
- ゲ ス ト 士別市立病院改革推進会議議長 高橋光一氏
- ニコニコBOX 士別地方技能士会創立40周年記念式典終了お礼 菊池 博会員

累計 366,000円

### 例 会 予 定

#### ■4月の予定……………(ロータリー雑誌月間)

- 4月7日(月)／普通例会・理事会
- 4月14日(月)／普通例会
- 4月18日(金)～20日(日)／PETS、地区協議会(釧路市)
- 4月21日(月)／普通例会
- 4月28日(月)／夜間例会

#### ■5月の予定……………(ボランティア月間)

- 5月5日(月)／休会(法定休日：こどもの日)
- 5月12日(月)／例会・理事会
- 5月19日(月)／例会
- 5月26日(月)／夜間例会

## ■会務報告……………本山忠之会長

●先週は肌寒い日があり、又車内にいると日差しが強く熱いくらいに感じられるときもあり、体調が狂いやすくなる気候が続いたように感じています。皆様も充分お気をつけ下さい。

4月になり暫くすると決算総会を迎える団体も多いかと思いますが、私が所属します旭川司法書士会も総会を前にしまして会計監査、理事会等の会議のために役員が準備を進めています。経理担当の一人であります私も、週に少なくとも二回は夕方から9時くらいまで会議室に詰めていますが、ベテランの事務員が2ヶ月以上も欠勤していた時期があり、又体調の関係で無理もできないということではなかなか決算書類ができず苦しんでいます。

●5月31日に名寄におきましてIMが開催されます。今年度の地区のテーマでもあります「自然環境にロータリーを活かそう」の趣旨に沿いまして開催されますが、当士別クラブでは、福澤会員にお願いすることになり快諾を得ることができました。士別クラブで自然環境をテーマに大きな活動を行ったという記録が見当たりませんでした。福澤会員にはご自身の会社で取り組まれています「企業活動と環境」という視点でもお話いただければと思っています。

●本日は市立病院に勤務されております、高橋さんをゲストにお迎えしまして現在市立病院が抱えている問題とそれらの問題に病院関係者、市民はどのように対処していかなければならないと考えておられるのかをお話いただき、今後とも市民が安心して生活できるようお互いに努力していきたいと思っておりますので、よろしく願致します。

## ■幹事報告……………千葉繁夫幹事

●先週の例会でお知らせいたしました、5月31日(土)名寄市で開催されますIMの登録でございますが、参加登録自己負担金4,000円(登録料8,000円のところクラブで半額負担)で、登録目標数30名以上、交通手段はバスを利用し参加したいと考えております。締切日が4月23日までとなっております、大変恐縮ですが各テーブルに申込用紙を置いてありますので是非申込頂きますよう、お願い致します。

●5月、6月例会及び対外事業の案内です。

5月はボランティア月間で、5日法定休日、12日

普通例会・理事会、19日普通例会、20日(火)クラブ協議会(新旧)、26日夜間例会、31日(土)IM名寄市で開催

6月はロータリー親睦活動月間で、2日普通例会・理事会、9日早朝例会、16日普通例会、23日普通例会、30日夜間例会(本年度最終例会)

## ■卓話……………市立病院改革推進会議

議長 高橋光一氏

●本日は、士別ロータリークラブの例会にお招きいただき、大変ありがとうございます。

私は、ただいま吉川院長から紹介いただきました、病院改革推進会議で議長をおおせつかっております臨床検査室の高橋と申します。本日私のテーマは、昨年から連日報道されていますように、市立病院が存続の危機を迎えています。その概要と、士別市立病院内で再建に向けた職員の動き＝病院改革推進会議の活動を紹介したいと思います。



地域医療を担う病院の赤字、特に住民の意思が反映する自治体病院の赤字は今に始まったものではありませんが、特にここ2～3年で急速に悪化している状況です。国の医療費抑制政策に加えて、医師の研修医制度の導入で、地方に医師が派遣されなくなってきている。それが大きな要因となっております。そして自治体病院の財政悪化が自治体そのものの危機に直結している、いわゆる連結決算制度の導入、基準が示されたことにより、国・道が自治体病院の再編を推進しているのが、今日の状況となっております。

その実態を士別市立病院を例に示します。まず士別市立病院の不良債務の推移ですが、平成16年を境に3～5億の不良債務が積み重なっております。平成19年度で13億の不良債務になる見通しで

あります。また市自体の財政悪化により、市繰り入れ（不足分）の補填も平成16年度を境に停止しております。平成13年に29名の固定医をピークに、序々に減り平成17年度を境に激減しております。今年度においては15名の固定医が確保されていますが、消化器内科が1名になったことに加え、循環器1名・外科1名が短期交代の体制になっており、6月には循環器1名の撤退が想定されております。まさに医師確保殉難の時代であります。この不良債務の急増は、固定医の減少が原因であることがわかります。

この国をあげての地域医療体制崩壊の原因は3点に要約されます。

1点目の医療報酬制度の改悪はここ10年にわたって続いております。高齢化によって医療費がかさみ、国の財政を圧迫していることが理由です。最近の医療報酬改定の特徴は、急性期・高度医療（先端医療）に厚く、慢性期、特に老人医療には減額となっております。いわゆる、急性期医療・高度医療・専門化した病院形態で、なおかつ患者数を確保して効率よい病院経営をしないと、財政的にはなりたたない医療報酬体系になっております。士別市の医療体制を類似市との比較をすると、名寄・富良野・留萌・稚内と比較して、士別市は病院数いわゆる入院施設を有している病院は市立病院1ヶ所であり、診療所開業医は10ヶ所あります。このことは、士別の地域医療をになう市立病院は、急性期から慢性期にいたる広範囲の診療科が求められていることとなります。とりもなおさず、不採算の医療を余儀なくされている現状にあります。

2点目の交付金の削減要因ではありますが、特に北海道は交付金依存の自治体運営を余儀なくされております。大きな産業、税収源がある道内の自治体は限られております。夕張以来、自治体の隠し借金を明らかにする方策がされました。いわゆる連結決算であります。これにより自治体病院を抱えている多くの自治体のひっ迫振りが明らかになっております。病院の不良債務を明らかにし、財政力のない自治体は自治体病院経営から撤退せよとの方策であります。

3点目の研修医制度の導入であります。士別市立病院は20年前、今日と同様な状態にありました。

固定医がいなく赤字の状態、現在の東山地区に新築移転しました。しかし、前院長の上村先生・そして現院長であります吉川先生が、北大医学部・旭川医大の各医局との強い連携で、医師確保をしていただきました。その結果、平成13年には固定医29名体制が実現しております。ところが3年前からの研修医制度の導入により、大学の各医局にも残る医師がいなくなり、派遣どころか引き上げる状況となっております。医師派遣の最大供給源である医局体制崩壊が、地方の医療を直撃した格好となっております。

その対策として、国・道は崩壊している地域医療を再編すること。広域連携といわれている指針でありまして、全道を30地域に区分し、それぞれの自治体で協議し広域連携をなささいということです。つまり自前で生き残れなければ、地域で協議し、縮小・廃止・合併・民間委託を選択しなさいという指導であります。この道北地域は和寒からオホーツク枝幸までの名寄市立病院をセンター病院として指定されておりますが、継続協議していくことは確認しておりますが、具体化していないのが現状であります。

さて、この状況下で、士別市立病院については、士別地域医療を今後どうして行くのかが、昨年12月議会以来、院内院外で論議されております。その方向は、名寄との合併・もっと広く広域合併・縮小単独経営といろんな案が出されておりますが、現状は合併するにもすぐ実現できるものではない状況であります。累積赤字の13億は病院改革プランを作成して国の特例債を利用するにしても、年間2億の返還をしなくてはならない。そして単年度5～6億出ている赤字の経営体質を改善しなくてはならない。昨年職員の給与を5%削減しましたが、更なる給与削減・そして採算の合う体制まで病床数を削減していかざるを得ない現状であります。

この間、名寄との合併論議もされました。急性期は名寄・慢性期は士別という機能分担など具体的な話もありますが、実を結ぶ状況にはありません。この間職員の間では、病院の危機は財政だけの問題か？帳尻あわせだけの再建（縮小では）限りなく縮小をせざるを得ない。特に新築以降育ててきた優秀な人材が流失してしまう。つまりは縮

---

---

小は加速化され診療所になってしまう。そんな危機感を感じておりました。また名寄市立病院と比較して、そんなに土別は劣っているのか？自分たちの現在ある財産（土別市立病院のもつ優位性や特異性や人材）を見直すきっかけにもなりました。それは、健診センターであり、内視鏡センターであり、糖尿病センターであり、NSTの活動であります。それらは旭川以北では土別が先頭を切っている分野でもあります。

このことが職員自ら意識改革をしていく、病院改革推進会議の発足の動機でもありました。2月15日に発足して病院の課題を現場から見直していく作業を続けております。その中身は、収益増・経費削減はもとよりではありますが、なにより中心は、病院の頑張り・今まで培ってきた土別市立病院の財産を市民と共有したい願いであります。

この間、専門外来が二つたちあがりました。整形外科の浜田先生の脊髄外来と、療養診療科の沢口先生の療養診療科外来であります。脊柱外来は道北各地から患者さんが来院しております。また病院の先生方が診療科の壁を乗り越えていただきました。内科診療を他科で診療していただく体制がスタートしております。同規模の病院としてははじめての試みであります。

改革推進会議が発足して2ヶ月を経過しましたが、病院で使用するタオル等を職員から提供していただき800枚ほど集めて、使用しております。看護部門でも患者様の医療がスムーズにおこなえるよう、外来と入院の連携を深めております。また本の好きな入院の方、あるいは外来の待ち時間に図書の貸し出しの取り組みもはじまりました。市民にもボランティア参加をお願いしているところです。今後の予定では、医療スタッフによる、出前講座も企画しております。発足の折には、是非ご利用ください。

以上、意を尽くせませんが、医師減による病院の危機は、とりもなおさず市民のみなさんへ少なからず御不便をおかけしますが、職員もこの病院存続のために先頭に立って力を尽くしたいと思っております。今後ともご理解をお願いしたいと思います。

以上でおわらせて頂きます。

---

---